

第四章 第3節 「旧甲州道中（上り／後半）」スルーハイク

～ [旧五街道舞台^{どんちよう}緞帳中締大作戦] ～

「旧五街道」スルーハイクの締め括り（閉幕）として再度「旧甲州道中」に挑みました。標記旧街道を正身 2013（平成 25）年 12 月 18 日（水）下諏訪スタート～12 月 24 日（水）日本橋ゴールまでの 6 連泊 7 日間、ルート沿い計画距離 210 km に対する実歩行距離 239 km を連続連日歩行で踏破しました。1 日平均の実歩行距離は 34.1 km、同時間は 9.1 時間、同平均時速は 3.8 km でありました。もちろん、この期間中に休息日は入っていません。全ルートの概要は図-69 のとおりで、この時足跡を残した通過県は、東京都、神奈川県、山梨県、長野県です。

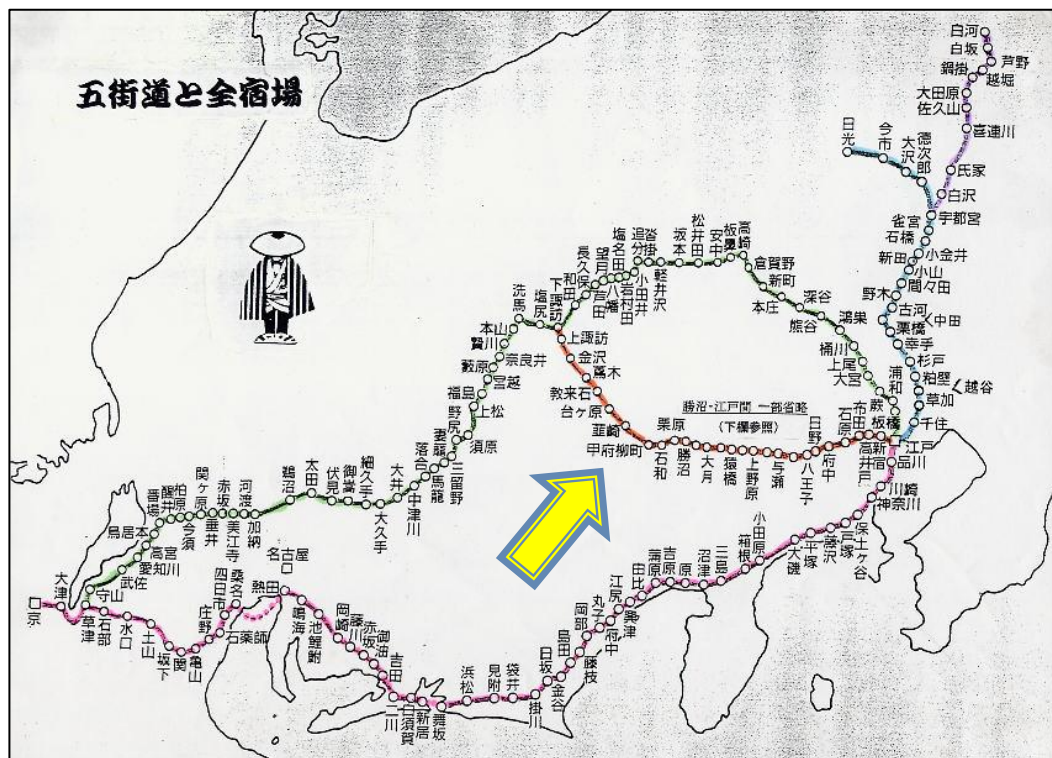


図-69

1. 「大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル」設定の背景事情
次の大きな二つの理由がありました。

(1) 「スルーハイク」への拘り

別記「第十部 第四章 第2節 旧奥州道中 スルーハイク ～ [蟻の一穴ブレイクスルー・東北縦断“日本第3運河開通”大作戦] のとおりを踏破し、いわゆる「旧五街道」ト

レイルは完結を見ていました。しかし、そこに記述した「13. さらなる高見のステージへ」の思いをどうしても具現化したくなりました。そうだ、「第十部 第三章 第1節」に既述のと通りの旧甲州道中を踏破したものの2回に分けているのではないか、全道の基点から基点までの一気通貫（連日・連続歩行に依るスルーハイク）にはなっていないのではないか、「第四部 スルーハイクに臨む4原則」に違反するのではないか、と思ったのです。それでは何とかしなければならないと義務感に変わり、「スルーハイク」に拘る事にしましたのです。この時の夢見をつたない短歌に。

“ 何よりもスルーハイクに拘って 甲州路を一気通貫（完） ”

どうしても「スルーハイク」への拘りが捨て切れずに思案している中で次のフレーズが浮かんで来て「大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル」を見出しの [旧五街道舞台^{どんちよう}緞帳中締大作戦] に設定したのです。思い・願望を中途半端な妥協で捨て去るのは最低の男ぞ！ 喝！

a. 神渡良平さんの「思考が人生を創る」の言葉です。第一勧銀総合研究所の冊子（平成14年1月1日発行）に掲載の次のようなフレーズです。

○はじめに

思考が人生を創る！とは凄いメッセージである。思考が人生を創るとは、心の持ち方次第で、自分自身の人生の主人公になれると言う事だ。これは生死の境に立たされ、闘病生活を経て、ようやく社会復帰できた私も痛感している事であり、古今の聖賢たちが^{つか}掴んでいた人生の哲理である。人生を決定するのは、学歴でもなければ、親の七光りでもなく、コネでもなく、自分自身の「ものの考え方なんだ」とわかったとき、人は他人のせいにして責任逃れする事を止め、自分磨きを怠らなくなる。そこから人生が開けていき、自分の人生の主人公になれるのだ。だから「思考が人生を創る」とは、ありがたい宇宙の哲理なのである。

平成十四年一月一日 神渡良平

b. 「一念岩をも通す」と言う諺

「石に立つ矢」とも言う。「一念」とは、^{いちず}一途に思いを込める事。人はその心・信念のあり方によって如何様にも成し遂げられる事を示す。中国は前漢の將軍であった李広が、石を虎と見誤って必死に矢を放った所、矢が見事に石に突き刺さったと言う故事から。

(2) 「旧五街道」中締め（閉幕）の舞台化

a. これまでの「旧五街道」全ての踏破を終えて、幕引きを（閉幕）したい、つまり、「後は、旧五街道は歩かない」と思いました。しかし、一方で、「将来の事は未知だ、また、歩きたくなるかもしれない」と言う思いも交錯しました。後々、旧中山道、旧東海道については、反対方向、つまり、上りの向きで歩く可能性も残して置きたくそのような思いがあったのです。ならば「中締めだ」と連想しました。「中締め」は字句の通り中ほどを締める事なのですが、宴会などでは実質「終了」です。こんな事からイメージは上記舞台の緞帳中締めに結び付いて行ったのです。

b. 「旧五街道トレイル」を一括りにし、舞台と見立てて見ました。まずは、「旧五街道」を折り畳んで（混合して）収納した袋と言うものを仮想しました。そのイメージを図化したのが図—70・71です。前者は概要、後者はその細部のイメージです。既に踏破済のトレイルは、①旧日光道中→②旧中山道→③旧甲州道中（既に2回に分けて完歩、この2回を纏めて③としている）→④旧東海道→⑤旧奥州道中の順序で完了しました。前回の「旧甲州道中」は順序としても真ん中と言う事になっていました。

いずれもその軌跡（行動）は、日本橋を出発基点にスタートし、それぞれの旧街道の終着基点にゴールする、いわゆる順向き、つまり、下りの向きのトレイルでした。これはファスナーのある袋を開けたイメージに繋がりました。そこで、「閉幕する」と言う事は、開けた袋を閉じる事であり、ファスナーを反対に引けば良いと考えたのです。

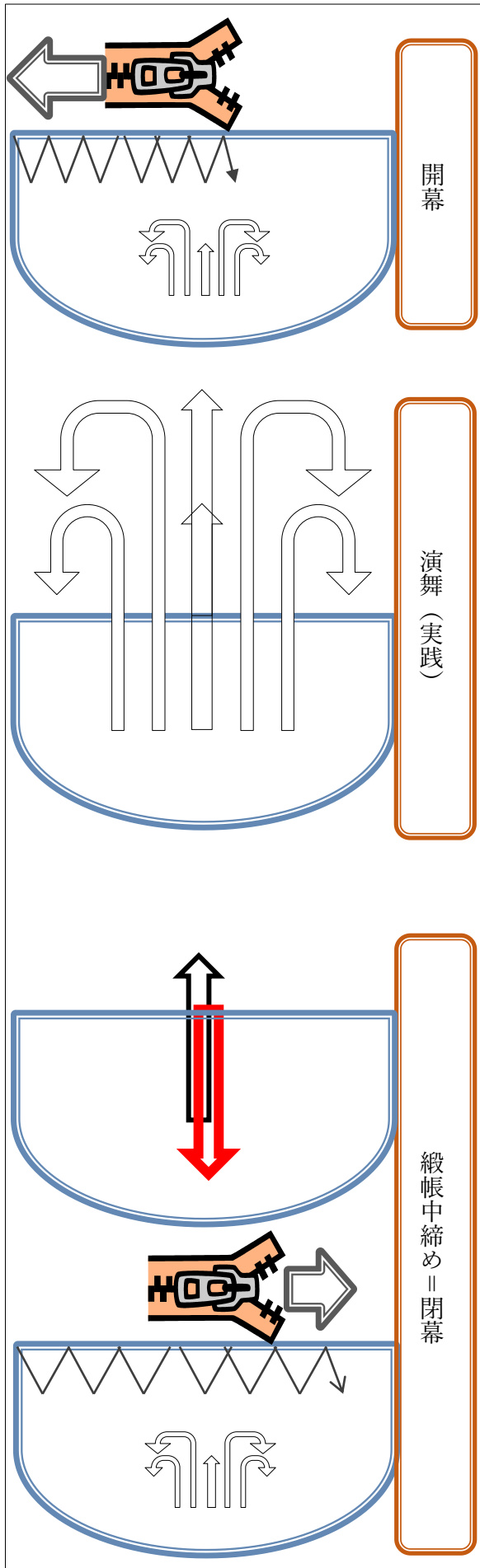


図-70

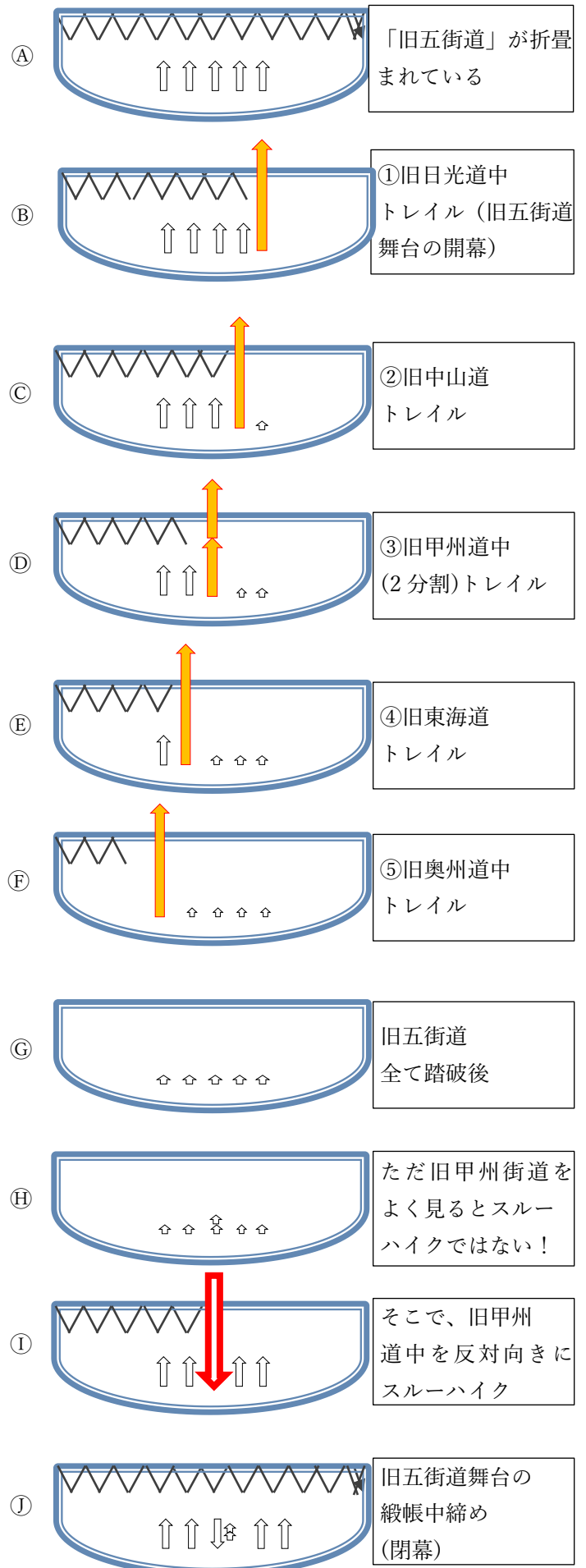


図-71

反対に引くには、どれかを逆向きに歩いて、つまり、上りの向きに歩いて閉じたイメージを作れば良いと発想したのです。そこで、真ん中に位置する「旧甲州道中」から代表になって貰い、下諏訪から日本橋へ、つまり、上りの向きに歩こうと決めたのです。なお、両同図は、論理的な整合性が「あるとか、無いとか」で見ても意味がありません。あくまでもイメージです。

(3) 日程決定の意義付け

次に、スタート並びにゴールの日を決めるに当っては、これまでのトレイルの実績を踏まえて、歩行時速 3.5 km、1日の歩行時間 9.5 時間にすると 1日約 33 kmを歩く事が出来ます。一方、経験則から計画距離の約 1.15 倍程度が実歩行距離となる事から、総距離は $210 \text{ km} \times 1.15 = \text{約 } 242 \text{ km}$ となります。これらの事より $242 \div 33 = 7.3$ 日程となる事から、所要日数を 7 日間としました。この所要日数 7 日間は変動不可とします。これより日数を短縮すれば 1 日当りの歩行時間が長くなり、日が短い季節なので暗くなってからの照明（ヘッドランプ）携帯の歩きが長くなります。逆に長い日数に伸ばせば、私の歩きのテンポ・リズム感からすれば、ダラダラと締りの無い歩きになるか、宿に早く到着し滞在時間が長くなります。そこで所要日数を 7 日間に固定しました。

a. スタート月の設定

閉め・締めであるから、1年においては 12 月となります。そのまま採用です。他方で、12 月は、「いちについて=位置に着いて」です。

b. ゴール日の設定

閉め・締めであるから、スタートに繋がる頭からではなく、後部から決める、つまり、ゴール日から考えました。語呂合わせで発想しました。前回拘った父親の月命日「24 日」にまたもや執着しました。亡き父親は亡き母と共に昭和 20 年の 8 月 15 日終戦の直後に開拓部落に入植し、私の想像も付かない苦勞・艱難辛苦に耐え、辛酸を舐めつつ生きて来た人です。その「苦勞・艱難辛苦」を少しでも和らげたく、「9 6」を迷信的に最も忌み嫌う「死=4」で割って見ました。その答えは「24」になります。24 日は亡父の月命日になります。「24 日」をスタート日にするかゴール日にするか。やはり「締めた・閉めたい」（2つの4）と言う思いが強く、「24 日をゴール日」に決めました。

また、「2 4」は「錦を飾る」にも繋がります。その意味は、「美しい着物を着る。転じて、成功して美しく着飾って故郷へ帰る。」と言う事です。この言葉は、「旧五街道」トレイルの中締めの慶事に真に相応しい贈り物だと思い、率直に喜ぶ事にしたのです。12 月 24 日は、クリスマス・イブで東京はきっとはなやかな雰囲気にも包まれているだろう、味わいたいという思いになりました。

c. スタート日の設定

それでは、スタートを何時にするかとなります。前記の通り所要数 7 日間固定なので、^{おの}自ずから「18 日がスタート日」となります。今度は「18」の意義付けを直観で考えました。親の苦勞の 2 倍を背負って歩かなければと思ひ、「^苦9 × 2 = 18」で「18 日」に合致しました。また、「18」は「一発」と発声出来ます。コマーシャルの掛け声にもあります。さらに、「1」の「いつ」は「いち」であり数字の始まり、つまり物事のスタートに繋がります。あるいは、「一番の 1」です。つまり「ナンバーワン」に繋

がります。8は末広がりのですから、目出度し目出度しで締め括る事になります。真に縁起が良いのです。結局は、12月（位置に着いて）でスタートし、24日（錦を飾って）に締め括った事になりました。目出度し目出度しです。

d. 誕生日との連関

私は昭和24(1,949)年生まれです。この数字は、前記b. で表れた数字と同じものなのです。こうすると、スタート日の18日とゴール日の24日は、私自身の生命と必然性を以って繋がって来た思いになりました。

e. 六曜の巡り

出発日の12月18日は「友引」で、終着日の24日も「友引」です。「友を引く」の「友」については、身の回りの知人・友人であり、日（太陽=天照大御神）月（お月様=月読尊）の神仏もおり、サンタさんもおり、私の亡き両親もおり、これら皆を「友」として、導き・導かれてのトレイルにしたいとの思い入れにも繋がりました。

2. スタート地点の下諏訪の事

長野県は、信州諏訪湖は、古代に於いては日本国土、取分け本州（蜻蛉の形）の中央にあると見られていたとの事です。諏訪湖は、図-72の位置にあるが、中央構造線とフォッサマグナ地帯西端の糸魚川-静岡線との交点に位置しています。ここを国土のGスポットと言う人もいます。下諏訪は、諏訪湖の北方に位置しています。現在の日本列島4島を見ても下諏訪はほぼ中央にあります。まさに蜻蛉の形の中央です。このような日本国のGスポットをスタート

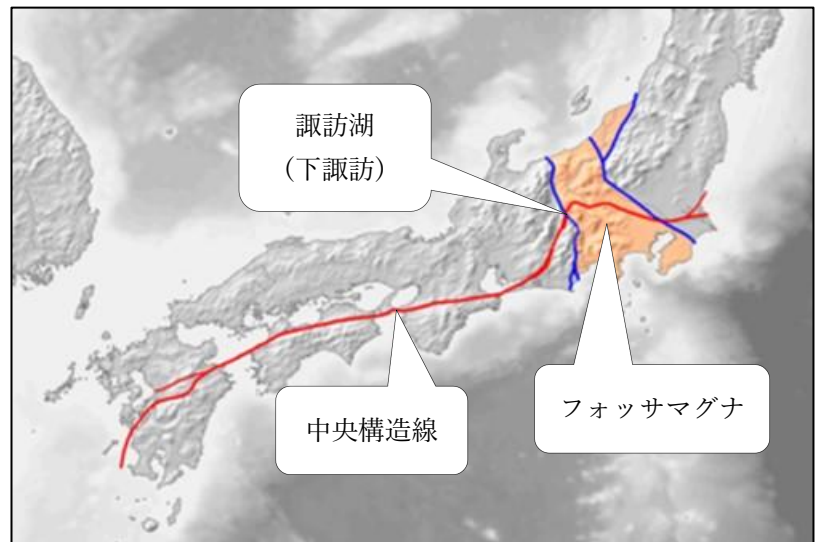


図-72

基点にする事は、とても意義深いものと思ったのです。旧五街道との関連で見ると、下諏訪は旧中山道と旧甲州道中の合流点（図-73）として、往時はとても賑わった所です。ここには、過去の旧中山道、前回の旧甲州道中（下り）、旧塩の道（秋葉古道）トレイルと合わせて4回目となりました。この基点の直ぐ近くの諏訪大社秋宮にはその都度、感謝の真心を奉げて参拝しました。



図-73

3. トレイルの概要

(1) 前半の3日間の状況 ~ 雪と雨の中、雨具を着用した3日間→「モノクロ」世界

18日（水）7時45分、下諏訪の諏訪大社秋宮をスタートし、いよいよ「旧五街道」中締めトレイルに入りました。この日の昼前から雪が舞い始め、次第にみぞれ混りから本降りになり、投宿予定の富士見町に差し掛かった時は冷え込みも重なって、すっかり雪国の様子となりました。翌日19日（木）の朝は富士見町宿の前で積雪20cm位はあり、この日の午前中

まで湿った雪が降り、次第に小降りになったものの1日中ポンチョ（雨具）を着用しました。この2日間は、空は黒っぽい雲が垂れ込め、大きな塊の雪と重なって視界は白銀の世界でありました。自宅周辺でもなかなか見られない幽玄世界でありました。3日目の20日（金）は甲府を通過したが、この日も夕方まで小雨交じりの雪が舞い、冷え込みもある事から1日中ポンチョ（雨具）を着用しました。勝沼の民宿大善寺に入る直前の16時20分かぎの夕闇が迫る頃にやっと晴れ間が広がりました。この3日間は、最低気温は氷点下3℃位、最高気温は6℃位であり、覚悟はしていたものの憂鬱な時間でありました。そして、最大の心配事が湧いて来た、それは、これから越える笹子峠の積雪量の事でありました。富士見町周辺の標高9百数十メートルに比べ、同峠は2百メートル余りも高いので、どんな状態になっているのか常に頭から離れない状況になりました。

（2）後半の4日間 ～ 快晴の4日間→「スカイブルー」世界

4日目の21日（土）は、放射冷却で宿のある勝沼の気象データに依ると最低気温はマイナス3.7℃であり、道路はツルツルに凍っていました。その分夜が明けると快晴であった、民宿大善寺のスタートから1時間余り歩いた7時10分過ぎからの道は雪上歩行となりました。日影の集落から林道を外れ、笹子川沿い右岸の古道に入りました。途中一里塚跡まで何とか行けたが、その後は、積雪と相まって夏道は消えていました。しかし、GPS オレゴン機の計画ルートに従い30分間ほど雪と笹藪混じりの雑木林をルートファイティングで格闘し突破しました。この所の積雪は10cm位であったが、笹子峠に向けて標高を上げるに従い雪嵩が増え、峠の所（図-74）は30cm程度の積雪となっていました。



図-74

た。幸いに昨晚の冷え込みがあって雪が締^{しま}っていた事から歩き難さはさほど感じませんでした。もちろん後先に私以外の人の足跡はなく、ただ、野兎とカモシカと思われる動物（獣）の足跡が古道の道筋に残されていた、積雪のため古道の正確な道筋は分らないが、予め計画ルートを入力した同オレゴン機を携行していた事からまったく不安を感じる事はなく、危険を感じる事もなく雪の笹子峠を無事越える事が出来ました。



図-75

残りの5日目22日（日）は「恋塚の峠」を越えるが、その手前で振り返ると図-75のとおり、富士山が快晴の青空に浮き上がるようにくっきりときれいに見えました。この日の冬至を潜り、6日目23日（月）も快晴で、標高550mほどの小仏峠を越えたが、そこには雪はまったくありませんでした。前記のとおり、「旧甲州道中」を歩いた前回は富士山を1回も見事出来なかったが、この度は素晴らしい富士山を随所で堪能しました。

7日目最終日24日（火）も朝から快晴となってクリスマス・イブ、八王子当りから都心まで街並みが途切れる事なく、往来する人々が増えて行き、喧噪感が増して来ました。都心に入れば、アベノミクスの経済効果なのか、方々に大型クレーンが立ち並んだ建築現場が目に入り、大都会東京の躍動感に浸りつ

つ、日没後の16時50分、基点の日本橋に到着し、貫（完）歩^{かんぽ}の終結となりました。クリスマス・イブの夜で、行き交う人々の表情は澁刺としており、日本橋から南西に直線的に延びる首都東京の最高級繁華街

東京都中央区銀座通りの LED 街路灯は、白っぽい淡い揺らめきを放ち、ビル街の照明とも相俟って醸し出されたロマンチックな雰囲気感傷的になりました。

(3) 実歩行距離

	計画距離	実歩行距離
前回 2012 年	211 km	247 km
今回 2015 年	210 km	239 km
図(表) - 76		

図(表) - 76、計画距離対実歩行距離の関係は左表のとおりであります。今回の計画距離が 1 km 短いのは韮崎市円野町でもう一つの古道ルートを辿ったからであります。特に実歩行距離 8 km の差異は、前は猛暑の中でのトレイルであり頭がボーッとする事が多々あり右往左往した事、史跡な

どの見所に積極的に立ち寄った事の増によります。前は 2 回に分けたとは言え、合計ではやはり 7 日間 (3.5 日間 x 2) でありましたが、総距離は同じなので当然の帰結と言う事です。

(4) 気付き

前は日本橋から下諏訪向きの下りトレイルでしたが、今回は反対に下諏訪から日本橋への上りのトレイルの中で、記憶が甦った風景もあったが、別天地に来たような状景も感じました。まったく同じルートで同じものを見ているにも関わらず、反対側から見る、逆さまから見ると、こうも違うのかと、新鮮味が湧くのを覚えました。物事を片方からの偏った見方ではなく多面的に複眼的に観察する事の大切さに改めて気付かされました。

=====
(後日談)

2015 (平成 27) 年に第 1 回目の四国遍路 (本札 88 + 別格 20 の 108 か寺) では順打ち (右廻り)、2017 (平成 29) 年の第 2 回目四国遍路は逆打ち (左廻り) を行ったが、殆ど思い出せませんでした。180 度方向を変えるということは、如何に新鮮さを与えるか、固定観念・既成概念が如何に恐ろしいかということを感じました。

=====
(5) 充実感

最終日、東京都心部に入り皇居の二重橋で天皇陛下の 80 歳の誕生に頭を垂れて祝意を表し、ゴール (終着点) の日本橋に到達したが、ここは通算 6 度目の発着となりました。歩きの中で、前述、「大香ブランド老魂サブタイトル」の設定背景事情の事が終始脳裏を過ぎり、年の瀬の師走の中で、無事に、好きな「歴史街道」歩き旅の「旧五街道中締め」が出来た事にほっとした安堵感を覚えました。じわっと充実感が溢れるのを率直に喜びました。その時浮かんだ一首です。

“ 日本橋よ古道基点と崇めまし ^{あが} 閉めた結びに ^し 歡喜の涙 ”

(6) 足の事

過去のトレイルでは必ず足の裏の熱損傷に悩まされて来ましたが、今回はまったく問題は発生しませんでした。それは、寒い時期だからだと思います。つまり、路面は冷え込んでいるので、内部に熱が過度に ^{こも} 籠ると言う事がなかったからだと思います。

3. ハプニング

(1) 私的事

2日目に起きた事で、一つ目は、私のトレイルに必携のダブルストックの1本の先端部が途中で折れてしまった事です。二日目はデジタルカメラの電池の充電器を自宅に置き忘れてしまった事です。特に後者については一瞬慌てましたが、これらは3日目の甲府市内で購入し解決しました。また、充電器忘れは、忘却防止のチェックリストを作ってチェックしながら忘れたのです。情けない限りを悔いているが、歳

(加齢)の所為^{せい}にしています。

(2) 猪瀬東京都元知事の退庁

最終日24日(火)新宿に差し掛かった際、トイレを利用したいと思ひ、東京都庁に立ち寄って見たら報道陣が沢山いました。猪瀬知事の退庁と言う事だったので待ちました。14時過ぎに退庁したが、マスコミ報道のとおりで何の儀式もありませんでした。前石原知事退庁の時は、ご自身の希望でロッキーのテーマ曲が流れる中で、女子職員から花束を贈られ、華やかに去って行ったのに比べると、音楽も花束もないそっけないものでした。結末は図-77の評価のとおりです。



4. 心境の吐露

(1) 取組み前の弱気

「旧奥州道中」スルーハイクを完歩した時に「13. さらなる高見のステージへ」の思いを具現化したくなったものの、「すでに旧甲州道中は完歩している訳だから旧五街道トレイルは立派に完結しているではないか、何もよりによって年も押し迫った12月の寒い時期で、最も日

か短い12月にやらなくても良いではないか」と、例によって私に内在する荒魂が邪魔しに來ました。そこに現れた不動明王から右手の宝剣と左手の繩^{けんさく}索^{なわ}でしっかり懲らしめて貰い立ち直った次第です。

(2) 取組み中の楽観

モノクロの前半とスカイブルーの後半を歩く中で、前記図-1の「吾が人生放物曲線」と「大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル」設定過程が時々浮かんで來ました。そして、さらに心は発展して、
“ 片思い古道を恋人一人旅 老魂燃えて今が思春期 ”

へと、繋がって行きました。今回の「旧五街道舞台^{どんちよう}緞帳^{うま}中締大作戦」は、必ずや上手く行くと言う楽観的な思いが充満しながら歩きました。なお、天気の変化は「第四章 第2節 『旧奥州道中』スルーハイク」と似たような経過を辿りました。このことは前記のとおり「13. さらなる高見のステージへ」の思いで直結している事からなのか不思議な繋がりを感じます。

(3) 取組み後の混迷

「歴史街道スルーハイク遊学紀行ステージ1」の旧五街道に区切りを付けたものの、また、次への欲望が吹き上がって來ました。歩きたい所は沢山あってどうすれば良いのか?!

5. 感想をつたない短歌に

(1) 対比の感想

前回までを踏まえ

“甲州路^{24き}錦^{みはた}の御旗^{かか}を掲げ行く 江戸を下りて新世^{しんよ}を開く”

“甲州路江戸を下りて歩き行く ファスナー開き我魂^{がこん}を放つ”
今回の纏めは、

“甲州路^{いつ かいどう}の街道^{くく}締め括る 東京^{みやこ}に上り現世^{のぼ げんせ}を中締め”

“甲州路^{みやこ}東京^{のぼ}に上り歩き継ぐ ファスナー閉じて閉幕儀式”

(2) あるがままに

“しっかりと街道歩きを閉じたくて 甲州^{みち}街道に足跡残す”

“甲州路^じの笹子峠^{けもの}は雪の上 獣の跡が道を案内”

“白銀に足跡落す甲州路 笹子峠を一人で越える”

“旧五街道^{かい どう}の中締め歩き甲州路 前は雪雨後は陽光^{ゆきあめ}”

“前三日はとげ刺す天気^{みっか}の寂^{じゃく}が降り 不安強める北の雪風”

“小雨降り雪が混じりて下を向く 冷が浸み込む甲州街道^{れい}”

“後の四日は青空盛りで温かい 古道の閉めに神仏並ぶ”

“青空が私を導く甲州路 陽光^{ひかり}舞い散る古道のハイク”

“太陽とサンタの微笑み真正面^まに受けて 街道歩きの閉じ方儀式”

“クリスマス旧五街道歩きの節目時^{かい どう} サンタの褒美^{ふしめどき}は中締め^{どんちよう}緞帳”

“サンタ日に甲州路を歩き見た 五街道締めのプレゼンを貰う”

“偉大なるサンタ権現息を吐く 賜る褒美^{ごんげん}は旧五街道^{かい どう}完歩”

“天照^{あまてらす}（皇大神）天から応援青空で 歩く背中に鼓舞の激励”

“天照御神^{あまてらすみかみ}が贈る青い空 古道閉じ日に至高プレゼン”

“一歩ずつ歩みを繋ぎ甲州路 街道歩き立派に閉じる”

“旧五街道閉じ方^{ご かい どう}思案如何せん 甲州道で錦を飾る”

“お見事に旧五街道歩きをクローズド^{かい どう} 甲州路で錦^{みち 24き}を飾る”

“年の瀬の師走の月に甲州路 そのまま姿が閉幕儀式”

“飽きもせず古道歩きの長丁場 飛耳長目が大活躍す”

“モノクロとスカイブルーが入れ替わり 喜怒哀楽の濃淡

を知る”

(後日談)

図一78のとおり2014(平成26)年2月14日(金)から16日(日)に掛けた豪雪により山梨県全体が孤立状態に陥ったのです。この事を「旧甲州道中」周辺の地形鳥瞰図(図一79)と照合して見ると納得します。吾が山形県と同様に盆地であるが、四方が高山(東に関東山地、南に富士山、西に3千メートル級が連なる赤石山脈)の山塊に囲まれています。周囲の山の標高は山形盆地の比ではありません。



図一78



図-79

⑫ 2013 (平成25)年「旧甲州道中 (上り)」スルーハイク (6連泊7日間) の全踏破歩行記録 ----- 移動行程集計表

< 携行したガーミン社の「オレゴン機 (地図搭載、GPS軌跡&タイム スタンプ機能)」と「カシミール3D (フリーソフト)」により集計 >

「大香ブランド老魂サブタイトル」は ~ 旧五街道舞台緞帳(どんちょう)中締大作戦 ~

累積 日数	行動月日		街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間				平均時速	天候	備考	宿泊先 (略称)	
	月 日	曜 日			歩行開始 時:分	歩行終了 時:分	歩行時間 時間:分	時間換算 時間				自然の風景 と心の情景	所在地
				a	b	c	d=c-b	e	f=a/e				
前日	12月17日	(火)									(前日泊)→	↓	長野県下諏訪町 グリーンサンホテル
												スタート	
1日目	12月18日	(水)	[下諏訪(S)]→諏訪→茅野→富士見	31.3	7:45	16:05	8:20	8.3	3.8	晴後雪	前半3日は雨と雪	モノクロ	長野県富士見町 大勢館
2日目	12月19日	(木)	(前終点)→小淵沢→台ヶ原→韮崎	33.4	7:35	14:50	7:15	7.3	4.6	雪後小雨	〃	〃	山梨県韮崎市 ホテルルートインコート韮崎
3日目	12月20日	(金)	(前終点)→甲斐→甲府→勝沼	33.5	7:10	16:45	9:35	9.3	3.6	小雨	〃	〃	山梨県甲州市 大善寺 (民宿)
4日目	12月21日	(土)	(前終点)→(笹子峠)→笹子→初狩 →大月	31.5	6:10	15:40	9:30	9.5	3.3	快晴	後半4日は晴れ	スカイブルー	山梨県大月市 ビジネス旅館中沢屋
5日目	12月22日	(日)	(前終点)→(恋塚の峠)→上野原→相模湖	36.0	6:25	16:05	9:40	9.7	3.7	晴後曇	〃	〃	神奈川県相模原市 ビジネス旅館 もみぢ
6日目	12月23日	(月)	(前終点)→(小仏峠)→高尾→八王子 →立川	29.8	6:35	15:10	8:35	8.6	3.5	晴	〃	〃	東京都立川市 ビジネスホテル小沢屋
7日目	12月24日	(火)	(前終点)→府中→調布→新宿 →[日本橋(G)]	43.1	5:45	16:50	11:05	11.1	3.9	快晴	〃	〃	ゴール
												(最終日泊)→	自宅

合計	239	210	←ルート沿い計画距離
1日平均	34.1	9.1	3.8
	km	時間	km/h
			30.0
			km

(注1) 前回の本道中トレイルは、日本橋→(下り)→下諏訪の向きでこの間を2回に分けて歩き、今回の中締めトレイルは下諏訪→(上り)→日本橋の向きで、この間をスルーハイク(連日歩行の一気通貫)で踏破した。

(注2) ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、29km(1日当り4.1km程)長くなった理由は、山道の登降(沿面距離)、神社・仏閣立寄り等のジクザク歩き方の影響による。

(注3) 距離と時間の集計は、旧街道・古道沿い関係のみであり、長時間(片道15分・500m程度超過)街道を離れた場合などの移動ロスを除いて補正している。